

昭和61年1月13日～2月5日
大学図書館2階展示ホール

年中行事

年中行事は、一年間の一定の時期に慣習として行われる公事をいう。日本の年中行事は大別すると、公家・武家・民間の年中行事に分けられる。公家年中行事は、神祇的な新嘗祭などの祭礼、政治的威儀としての各種の節会・除目・吉書奏など、平安時代には、その数は元日の四方拜から歳末の追儺まで200以上に及んだ。その後、鎌倉幕府成立とともに武家年中行事が盛んになる。公家年中行事を継承しながら、流鏝馬・犬追物など武家固有の行事を生み出した。一方室町時代より江戸時代にかけて、一般庶民の地位が向上するとともに民間の年中行事が盛んになる。公家の年中行事や中国の風習などが従来の民間行事と結びついて、正月の門松・三月の難祭・七月の七夕などが民間でも盛んになった。

- 1 雲図鈔 附御即位図 (うんずしょう) (常磐松文庫)
藤原重隆著
写本一冊 美濃判 絵入 印記「関根文庫」「せきね文庫」(関根正直)
元日の四方拜から歳末の追儺に至る年中恒例の儀礼を指図と式次第により説明したもの。永久三年(1115)より元永元年(1118)の間に成立したと言われる。
- 2 [年中行事] (ねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
写本一冊 美濃判 表紙なし 十行書き 奥書なし [室町期写] 猪熊信男旧蔵
内容は、年中行事第一・帝王御次第第二・女院第四・絲竹事・御給年官年爵第十。龜山天皇(建長元年～嘉元三年(1249～1305)在位1259～1274)が今上となっているため、鎌倉期の年中行事と推定される。
- 3 [年中行事御障子文] (ねんじゅうぎょうじごしょうじもん) (常磐松文庫)
写本一冊 中本 八行書き 朱書入 奥書「右年中行事一冊借乞刑部卿信好卿所持本加校合也 于時嘉永二年(1849)藤原延米」 外題「殿上年中行事」
内題「年中行事」 日野西家蔵書印 猪熊信男旧蔵
光孝天皇の仁和元年(885)五月二十五日に太政大臣藤原基経により献せられたものと言う。平安時代の代表的な宮中年中行事。
- 4 杵築社事跡年中行事 (きずきしゃじせきねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
写本一冊 美濃判 仮綴 九行書き 延宝七年(1679)奥書の転写本 猪熊信男旧蔵
出雲国杵築大社すなはち出雲大社の事跡と年中行事を記したもの。

- 5 神祇官年中行事 (じんぎかんねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
写本一冊 美濃判 仮綴 十二行書き 元暦元年(1184)奥書の転写本
日野西家蔵書印 猪熊信男旧蔵
正月より十二月に至る諸社祭礼・神馬供饌などの事を記した年中行事。
- 6 小野宮年中行事 (おののみやねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
藤原実資著
写本一冊 美濃判 十行書き 奥書なし [江戸後期写] 内題「年中行事」
東坊城家蔵書印(東坊城山陰) 猪熊信男旧蔵
平安中期の成立で、藤原実資(小野宮右大臣実資)晩年の著作と言われる。正月元日から十二月末日までの主要な年中行事を列記し、それぞれの項に解説を付す。行事の沿革や作法の根拠について記す事が多い点が特色である。
- 7 九條殿遺誠 日中行事 (くじょうどのいかい) (常磐松文庫)
藤原師輔著
写本一冊 大本 十行書き 訓点付 永正五年(1508)の転写本 [江戸中期写] 外題「日中行事」 印記「今出河家蔵書」(菊亭家) 猪熊信男旧蔵
天暦元年(947)から天徳四年(960)の間に成立。子孫のために日常生活の心得を説いたもの。
- 8 [師遠年中行事] (もろとうねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
中原師遠著
写本一冊 大本 八行書き 読曲付 永正九年(1512)権中納言藤宣の転写本 [江戸期写] 押紙一枚 内題・外題「年中行事」 広橋家蔵書印 猪熊信男旧蔵
漢文体で詳しく注記している。師遠は、寛治年間(1087～1094)に大外記に任じ、大治五年(1130)八月七日没す。続群書類従巻第251所収
- 9 [師元年中行事] (もろもとねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
中原師元著
写本一冊 半紙判 十行書き 仮綴 奥書 天明四年(1784)右権少将源朝臣(花押) 内題「年中行事秘抄」 外題「年中行事」 猪熊信男旧蔵
漢文体で詳しく注記している。師元は、安元元年(1175)五月二十一日没す。続群書類従巻第252所収
- 10 [師光年中行事] (もろみつねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
中原師光著
写本一冊 美濃判 十二行書き 頭注あり 奥書 文永元年(1264)・文永五年(1268)・建治元年(1275)の転写本 [江戸期写] 猪熊信男旧蔵
漢文体で詳しく注記している。師光は、文永二年(1265)三月十七日没す。続群書類従巻第254所収

11 年中行事秘抄 近代 (ねんじゅうぎょうじひしょう) (常磐松文庫)
 写本一冊(二巻) 美濃判 十二行書き 奥書 建武元年(1334) 藤原長光
 藤原長宗相伝 識語藤原良基 [江戸期写] 墨朱書入故実考証 猪熊信男旧蔵
 鎌倉初期の成立。宮中の年中行事について、月を追って諸書を抄録しつつ、その由来・先規などを解説し、巻末に諸祭期限その他の事項を付記したものである。写本も多く流布している。

12 [禁中年中行事略] (きんちゅうねんじゅうぎょうじりやく) (常磐松文庫)
 写本一冊 中本 横仮綴 奥書なし 外題「当時禁中年中行事」 内題なし
 猪熊信男旧蔵
 宮中の年中行事を略記したもの。

13 [建武年中行事] (けんむねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
 後醍醐院著
 写本一冊 美濃判 十二行書き 仮名書 奥書 応永十三年(1406) 寛正五年(1464) 文明十三年(1481) 永正十六年(1519) [江戸期写] 外題「年中行事」 巻頭注記「白文保二年至建武五年」 朱書入 猪熊信男旧蔵
 建武新政期の著述といわれる。正月四方拜から歳末追儺に至る宮中の年中行事の一々を仮名文で精細に描写したもの。

14 後水尾院当時年中行事 (ごみずのおいんとうじねんじゅうぎょうじ) (常磐松文庫)
 写本一冊(下巻) 美濃判 仮名書 奥書 天和元年(1681) 藤原基熙 天保九年(1838) 藤原光成 猪熊信男押紙一枚
 後水尾天皇(慶長元年~延宝八年(1596~1680) 在位1611~1629)、江戸初期の天皇。禁中並公家諸法度制定により皇室に圧力を加える幕府に反発。寛永六年(1629) 興子内親王(明正天皇)に譲位、以後崩御まで明正・後光明・後西・靈元の四代にわたって院政を行なった。その院政当時の宮中年中行事。

15 近代年中行事細記 (きんだいねんじゅうぎょうじさいき) (常磐松文庫)
 柳原資廉編
 写本一冊 美濃判 八行書き 函入 奥書 宝永己丑(六年(1709)) 河合重淳 延享元年(1744) 菅原長誠 内題なし 東坊城家蔵書印 猪熊信男旧蔵
 寛文(1661~1673)頃の宮中の年中行事。

16 尾陽年中行事略絵鈔 春の部 (びようねんじゅうぎょうじりやくえししょう) (常磐松文庫)
 猿猴菴撰
 写本一冊 美濃判 彩色函入 奥書なし [江戸後期写] 合綴「多度祭礼之記」
 尾張・熱田地方の年中行事を精細な描写であらわし、解説を加えたもの。合綴の「多度祭礼之記」も、多度大権現祭礼の由来を同じく絵入で説明したもの。

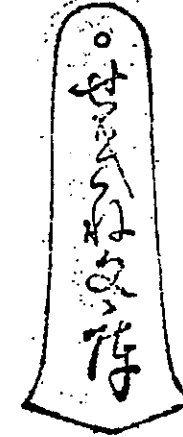
17 年中行事大成 (ねんじゅうぎょうじたいせい) (常磐松文庫)
 版本六冊(四巻) 美濃判 文化三年(1806) 大坂 古文字屋市左衛門他刊 角書「諸国図会」 挿絵 速水春暁斎
 正月から六月までの宮中・社寺・民間の年中行事を網羅し、また季節の風物なども解説している。六月までなのは、七月以降は板行されなかった為。

18 宮中年次御式之次第 (きゅうちゅうねんちゅうおんしきのしだい) (常磐松文庫)
 写本一軸 34cm 奥書 永暦元年(1160) 藤原為親 嘉応二年(1170) 藤原親雅 [書写年不明] 内題なし 題簽「御式之次第」 箱書「宮中年次御式之次第」 三井家蔵書印

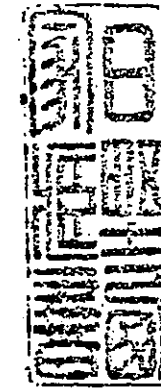
蔵書印



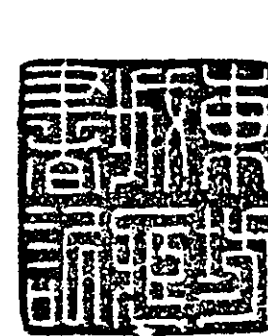
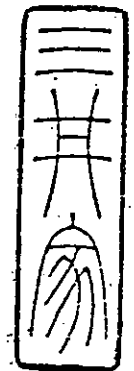
関根文庫 (関根正直)



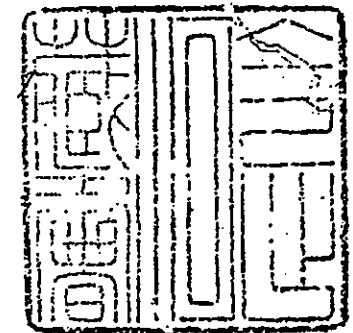
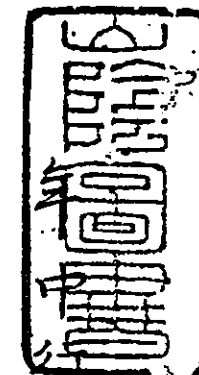
日野西家蔵書印



三井家蔵書印



東坊城家蔵書印 (東坊城山陰)



今出河家蔵書 (菊亭家)